

kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Spring 2021 / vol.7



最新納入事例
システムキッチンラポッテ



滋賀県守山市 マザーボード



樹ごころ
EIDAI



新製品紹介



kigokoro lab



ショールーム紹介

梅田ショールーム



探訪
日本の原風景

第7回
大阪市
中央公会堂

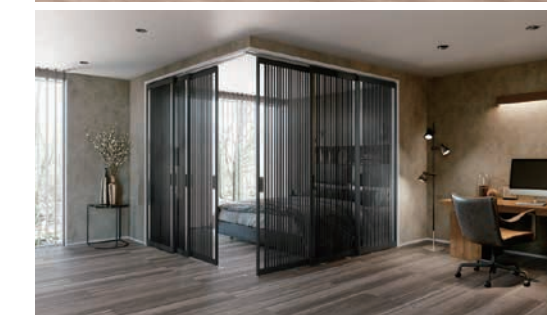
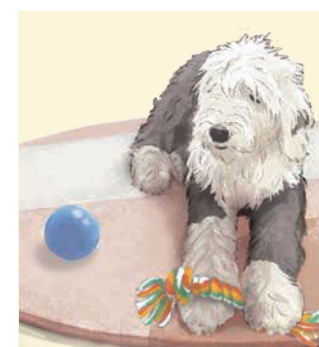


EIDAI Headline News

kigokoro

Spring 2021 / vol.7

第7号 令和3年4月1日発行
編集・発行：永大産業株式会社 事業管理部 広報課
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051



Skism

スキスム

好きを暮らしに。
自分スタイルの空間づくり。

しあわせを感じるのは「好きなもの」との出会いから。
好きを選んで、自由に組み合わせ、
気がつけば、家族の笑顔がはじける心地いい暮らしがはじまります。

木を活かし、よりよい暮らしを

EIDAI

永大産業株式会社
www.eidai.com

お客様相談センター

☎ 0120-685-110

[受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



新製品紹介



住空間に格調高さと重厚感を

室内ドア編

内装材のハイエンドシリーズ グランマジエスト

多様化するライフスタイルの中でも、こだわりをもつ高級志向のお客様向けに開発した製品、それが「グランマジエスト」です。今回は室内ドアと化粧壁材についてご紹介します。



室内ドア
「グレインエレメント」



室内ドア
「ソリッドエレメント」



光沢のある金属製の
エッジで高級感を演出



重厚感のある
厚さ40mmの扉



薄い枠材(スリム枠)と化粧壁材で、
同一素材でのコーディネートが可能



全長2,000mmのロングバーハンドルは
パールブラックとシルバーの2色



室内ドアは天然木や石材、金属の質感を追求して40mm厚を実現

2020年11月に発売した「グランマジエスト」は、室内ドア、シューズボックス、化粧壁材、造作材をラインナップした内装材のハイエンドシリーズです。

住空間の印象を大きく左右する室内ドアでは、天然木の風合いを基調とした「グレインエレメント」4柄4デザインと、石材や金属のような質感を追求した「ソリッドエレメント」5柄4デザインをご用意しました。どちらも、通常の開きドアの厚みが33〜36mmのところ、40mmの厚みとすることで重厚感を演出できます。「グレインエレメント」は、無垢調のデザインに仕上げられるため、継ぎ目のない木口仕上げとしていることが特長です。「ソリッドエレメント」は、木口材として光沢のある金属製のエッジを採用し、扉の質感を最大限に高めました。

さらに枠の存在感を最小限に抑えた見付け10.7mmのアルミ製スリム枠を新たに開発し、同じデザインの化粧壁材とコーディネートすれば、壁一面の一体感を演出できます。また、室内ドアではあまり使用されていないロングバーハンドルもご用意しました。

無駄を削ぎ落とし、本質的なモノを大切にした「グランマジエスト」。その洗練された美しさから、上質な暮らしが始まります。



詳細はこちら

開発者の声

ハイエンド市場の開拓に向け、 丸2年を費やしてチャレンジを。

企画を始めてから、様々な課題に取り組み、発売に至るまで丸2年。そこには、ドア厚から見直し、素材感にとことんこだわるといった大きなチャレンジがありました。



通常、面材は2枚で足りるところを、木目の良い表情だけを抜き出すために3枚使い、美しさを追求しています



エッジ材はアルミの押出材を使い、コの字型に面材を挟んでいるため、今後も面材のパリエーションを展開しやすくなっています



ドア枠の見付けを最小限に抑えることで、面材の表情が際立ち、壁とも一体化するように配慮しました



写真左から
内装システム事業部 商品部 山本 依佳
同 上 塚本 晃久
同 上 村上 普之助
同 上 橋田 凌

※コロナ感染予防対策ガイドラインに従って取材撮影を行っています。

「グランマジエスト」の開発に至った背景を教えてください。

塚本 ライフスタイルの多様化が進む中、お客様からハイエンドグレードの製品を要望する声が上がっていました。このグレードは他社でもあまりパリエーションを持っていないことから、先駆的に拡充しようと考えたことが開発のきっかけです。ハイエンド製品の出荷動向を分析してみると、家の顔となるエントランスからリビングの室内ドアやシューズボックスの出荷比率が高いことがわかりました。やはり、人は誰かに見られる場所にコストをかけるのだな、と。そこでスタートアップの製品としては、シューズボックスと室内ドアをメインにすることに決めました。

リアルな素材感の追求や、40mmの厚みなどが高品位のポイントでしょうか。

橋田 はい、特にグレインエレメントの表現には力を入れました。板目と柱目のバランスにこだわって、立体的に見えるように仕上げています。どの位置にどんな木目が入れば美しく見えるか、どこでカットすればいいか。表現したい樹種とドアのサイズによって、すべて最適な木目の位置を設定・生産できるシステムの開発を行いました。

開発に丸2年かかったというところ、それだけの苦労があったと思います。

塚本 今回、ドアの厚さ40mmにチャレンジしています。ハイエンド製品となれば、海外の輸入ドアや、地場の建具店などのオーダーメイドと競合することになる。厚みを変えようと生産ラインにも負荷がかかりますが、競合品はドアの厚みは36mm〜40mm。そこまでこだわらなければ戦えない。やってみる価値はあるのではないかと。

村上 長い道のりだったので、完成した時は「ようやくか」という思いでした。でも、新しい市場を開拓するんだ！ということがモチベーションになってがんばれた気がします。やはり、40mmになるとドアを閉めたときの重厚感のある感触が違いますね。他とは一線を画す、迫力のある製品を生み出すことができたと思います。

抗菌・抗ウイルス建材のご用命はぜひ当社へ

当社では、コロナ禍にある現在の状況を鑑み、目下、抗菌・抗ウイルス加工を施した製品の品揃えを急ぐとともに、販売の拡大に取り組んでおります。

内装材では、主に室内ドアや収納製品などで、人の手が直接触れる部品（レバーハンドル、引き戸の引き手、ターン鎌錠、握りバー、収納用取っ手、ポストフォームカウンター）を対象に、薬剤で表面を加工し、抗菌・抗ウイルス機能をもたせました。

また、化粧パーティクルボードにつきましても抗菌機能または抗ウイルス機能をもたせた製品がございます。

これらは、SIAA（抗菌製品技術協議会）の基準を満たした製品です。



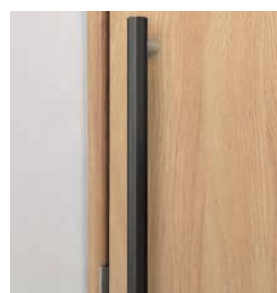
レバーハンドル



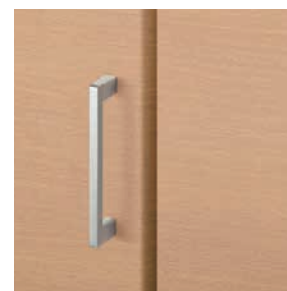
引き手



ターン鎌錠



握りバー



収納用取っ手



ポストフォームカウンター



化粧パーティクルボード（お客様の指定柄で表面を化粧）



アッシュ・ホワイト色を用いた施工例

3月1日からは、フローリングについても幅を広げ、「銘樹Jspec 抗ウイルス加工」を発売いたしました。この製品には公的基準を参考にした試験方法により、抗菌・抗ウイルス性能が確認された証としてEIDAI抗菌・抗ウイルスマークを表示しております。

「銘樹Jspec 抗ウイルス加工」は2Pタイプと3Pタイプがございます。色柄はウォールナット、ブラックチェリー、ハードメープル、オーク、アッシュ・ホワイト色の5色柄を取り揃えており、お客様のニーズに応じたインテリアスタイルの実現が可能です。

抗 菌

抗ウイルス



詳細はこちら

HPに新コンテンツ「EIDAI Little Press」をリリース

EIDAI Little Press



活動であっても、多くの方々と一緒に、ゆつくりと丁寧に、そして意義あるものに育てていきたいという願いを込めて、最終的に当社は、このサイトを「EIDAI Little Press（エイダイ・リトルプレス）」、以下ELPと略」と名付けました。

もともと「リトルプレス」とは、個人や団体が自ら制作した出版物を指し、たいいていの場合、その発行部数は多くありません。そのためかつては「ミニコミ」「同人誌」「自費出版」と同じ意味で用いられていました。

当社の社会貢献活動そのものに派手さはありませんが、取り組んでいる活動をご紹介しますうえで、どのようなネーミングが適切か、社内で検討を重ねました。その結果、たとえば今は小さな

小さくても意義ある活動をもくの方々とともに

Web上で当社の社会貢献活動をご紹介します
当社は2020年12月、自社ホームページ上に、当社が関わった社会貢献活動についてお伝えする専用のサイト「EIDAI Little Press（エイダイ・リトルプレス）」を立ち上げました。

様々な出会いを大切に

わが国には多くの非営利団体（NPO法人）が存在し、それぞれの特徴を活かした活動を展開しています。当社が安全・安心かつ快適に使える製品づくりを目指す事業活動の中で出会い、ともに活動したり、その活動を支援したりすることとなった団体があります。その一つがWheelchair Football Japan（日本車いすアメリカンフットボール協会、糸賀享弥代表理事）です。

同法人は、障がいの有無に関わらず、誰もが参加できるインクルーシブスポーツとして、「車いすアメリカンフットボール」の普及を通じて、共生できる社会づくりを目指しています。同法人との関係を深める中で、当社が冠スポンサーとなった「永大カップ」の開催が実現し、さらにホスピタルフットボールへの支援などへ活動が広がりました（kigokoro 6号のインタビュー記事で紹介）。

また、東南アジアの無電化地域にソーラーランタンを届ける事業や、高校の中で心の拠りどころ「居場所カフェ」を設ける事業を展開するNPO法人FAIRROAD（阪上由香理事長）も重要な当社のパートナーです。

2019年度には、急速に進む小中学校の統



NPO法人FAIRROADの活動
ソーラーランタン贈呈式
写真向かって左：栗本正則副理事長



日本車いすアメリカンフットボール協会の活動
第2回永大カップ
写真中央：糸賀享弥代表理事

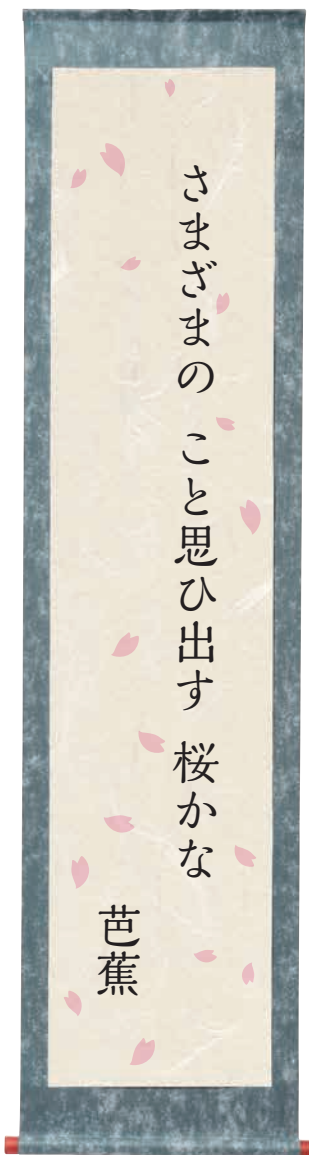
廃合について多くの人の意見を募ろうと、副理事長の栗本正則氏の発案で「みんなが学校を考えるセミナー」を開催しました（kigokoro 4号のインタビュー記事で紹介）。



ちょっと
一息の

column 木と俳句

有名な俳人の句に
詠まれた木について
ご紹介します。



桜

春の象徴といえる花が見事な、バラ科サクラ属の落葉広葉樹。
建材として流通するものは主にヤマザクラ。
材質、色調、加工性ともに優れ、建材や器具材など用途は多彩。
磨くと艶や光沢が出る。

ただ美しいだけでなく、
見る人の記憶を呼び起こす桜の花

「桜の花を見ていると、さまざま
なことが思い出される」松尾芭蕉の句
であることが意外に思えるほど平易
な句です。だからこそ、ずっと心に入
りこんでくるのでしょう。

あれは桜の時期のことだった、今
年もまた桜が見られてよかった。年
齢を重ねるにつれ、誰しもそのよう
に感じるのではないだろうか。

藤堂家の花見に招かれた芭蕉の
あらゆる思いがこもった一句

芭蕉は45歳でこの句を詠みまし
た。当時の芭蕉は、故郷である伊賀国
(現在の三重県)に帰省していまし
た。有名な「おくのほそ道」の旅に出
る一年前のことです。

この句に付けられた詞書(ことば
がき)から、藤堂良長の屋敷で開かれ

た花見の宴に招かれての一句である
ことがわかります。芭蕉は若い頃、藤
堂良長の父・良忠に仕える身でした。
ところが良忠は、自ら主催した花見
の宴の後、25歳の若さで急逝。これに
より芭蕉は侍の道を捨て、俳諧の道
で生きることを決意しました。そし
て脱藩の罪を犯してまで、故郷の伊
賀上野を後にしたのです。

幼くして父を亡くした良長は、父
について尋ねてみたい、と芭蕉を花
見に招いたのかもしれない。二度
と見ることはないはずだった藤堂家
の桜。「さまざまの」としか表現しよ
うのない、万感の思いが芭蕉の心に
去来していたことでしょう。

木材としても優れ、
いつも日本人の暮らしのそばに

桜は古くから名歌のモチーフとな
り、ことに桜を愛した西行法師は桜
について約230首もの歌を詠みま
した。毎年、今か今かと開花を心待ち
にし、咲けば感慨深く眺める人の心
は昔も今も変わりません。また、桜は
建材としても優秀で、家具や内装材
として現代でも私たちの暮らしのそ
ばにあります。まさに「国花」にふさ
わしい花を咲かせる、日本人が誇り
たい木といえるでしょう。

探訪

近代大阪のシンボルは二人の男の情熱から生まれた

日本の原風景

第七回 大阪府 淀屋橋

大阪市中央公会堂



大正ロマン佇むレ
トロな建築物は文化
芸術、社会活動の場と
して市民に愛され、そ
して利用されてきた。
そんな大阪のシンボ
ルを尋ねてみる。



地下1階、展示室のみ自由見学可能。
中集会室は貸室のため室内は見学不可

水の都大阪。江戸時代には「浪華の八百八橋」と呼ばれてきた。ここ梅檀木橋を渡った先にあるネオルネッサンス様式の建築物が「大阪市中央公会堂」だ。

この公会堂のことを語るのに外せないのが岩本栄之助だ。彼は北浜にある大阪株式取引所で株式の仲買人を行っていた。明治42年、渋沢栄一が団長となった渡米実業団に参加した彼は、アメリカの富豪たちが行っている慈善事業・寄付の習慣に強い印象を受け、帰国後、私財を費やし、誰もが使ってもらえる施設をとの思いで公会堂の建設に着手した。着工から5年の歳月を経て大正7年10月に完成したが、岩本栄之助は完成を待たずにこの世を去った。

彼の思いが届き、現在に至るまでロシア歌劇団の公演、アイシシュタインをはじめ、

ヘレン・ケラーやガガーリンなどの著名人による講演や市民レベルの集会、コンサートなど様々な催しに利用され、近代大阪の文化・社会史に深く関わってきた。

また、中集会室の床には古くから品のある高級感とデザイン性で親しまれてきたヘリンボーンが使用されている。外観、内装ともに近代建築史上重要なものとして高く評価され、平成14年には国の重要文化財に指定された。大阪のシンボルとして愛され続ける公会堂には地下1階にレストランもあるの



ショールーム紹介

梅田ショールーム

お客様によりよい住まいづくりをご提案

梅田ショールームは1982年4月の開設とその歴史は古く、今日まで約40年近く情報発信の拠点として、関西一円のお客様にご支援を賜ってまいりました。丁寧でわかりやすい接客や耳寄りな情報のご提供に加え、360度カメラを用いて、Web上でショールーム内を見学できる仕組みをいち早く採り入れるなど、先進的な取り組みも精力的に実施しております。先頃ショールームの改装を終え、展示内容を一新しましたので、是非お立ち寄りください。これからお客様に必要とされるショールームを目指し、力を尽くしてまいります。

住 所 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3丁目3-20
明治安田生命大阪梅田ビル14F

休 館 日 火曜日、水曜日、夏期、年末年始、5月連休

営業時間 AM10:00~PM5:00



新しい施設の名称をどうするか、事前に若者たちにヒアリングしたところ、マザーテラス、マザーシップと「マザー＝母(の愛)」が冒頭につくものが多かったそうです。最終的にはパソコンの中核部分「マザーボード」にあやかり、この施設もそうした社会で重要な役割を果たせるようにと、この名称に決定したそうです。



2階に設けられたくつろぎのスペース

「マザーボード」について



NPO法人四つ葉のクローバー理事長
杉山 真智子氏

くつろいだり、学んだり、様々な悩み事を相談したりする場所がどこにもない若者が実は数多くいます。精神的、経済的支援を必要とする十代の若者と真正面から向かい合い、将来に希望が持てるようになることを願いながら、日々活動に取り組んでいます。この度は様々な方々の協力を得て、元々店舗だった建物を改築し、1階、2階それぞれ30坪の広さをもつ施設に生まれ変わりました。しかし、いくら立派な器でもそれだけでは意味を成しません。

若者たちが心からくつろぎ、希望をもって自立していけるような施設にしたいというのが、私どもの願いです。

プロユーザーの目線



秋山立花一級建築士事務所代表
秋山 怜史氏

クライアントの望む理想的な絵画を想像し、それを空間に反映するという「翻訳力」こそが、建築士の力量ではないかと考えています。今回の物件のように、支援の必要な若者たちが集うスペースについても同様に、可能な限り「四つ葉のクローバー」様の思いをプロデュースさせていただきました。その意味でこのキッチンの選択は正しかったと思います。キッチンで若者たちが料理を作ること、食べることを通じて、良い経験を積んでもらえれば、と願っています。

今回採用にいったキッチン「ラポッテ」は品揃えが充実していると感じました。また、個人的な感想ですが、細部にわたる作りこみから判断すると、工場でしっかりとしたものづくりができているという印象を受けました。

施工・工事:株式会社大生産業 納材:平安建材株式会社



シンク前を開放したレイアウトとし、みんなで集まり、料理を楽しめるキッチンに

最新
納入事例

システム
キッチン

SYSTEM KITCHEN
Lapotte
ラポッテ

ラポッテ



4月にオープンする滋賀県地域養護推進協議会「マザーボード」(1階、2階を使用)

未来ある若者たちのための
心地よい居場所づくりの二助として、
システムキッチンをご採用
いただきました。

NPO法人「四つ葉のクローバー」(滋賀県守山市、杉山真智子理事長)では、経済的に困窮していたり、家庭に居場所のない18〜20歳の若者を対象に、自立支援のためのシェアハウス事業のほか、様々な社会事業を展開しています。この4月からはこうした若者たちのために、滋賀県地域養護推進協議会「マザーボード」という施設を新たに開設し、よりよいサード・プレイス※を目指す計画とのことです。今回の最新納入事例は、まもなくオープンする「マザーボード」を訪ね、杉山真智子理事長と開設に向けて尽力された秋山怜史一級建築士にお話をうかがいました。

※サード・プレイス＝自宅(ファースト)、職場(セカンド)とは異なる第3の場所という意味。米国の社会学者オルテン・パークによると、心地よい空間である、あるいは無償(安価)であるなど8つの特長を備えているものを指す。

様々なニーズに対応した製品を開発

2000年代に入り、消費者ニーズがさらに多様化する中、当社はハンガー、パイプや棚板、編みカゴなどのパーツ類をフルに活用して、室内のあらゆる空間に対応できる新しいタイプの収納製品を開発しました。それが「フィルカーゴ」(2008年発売)です。

インテリアにこだわりの持つユーザーの「家中の様々なものを、すっきりときれいに収納したい」という要望に応え、寝室、パントリー、玄関と場所を選ばずに設置できる点が大きな特長でした。

その後、すっきりときれいに収納できるならば、あえてものを隠さない、むしろ見せる収納、飾るための収納というニーズも増していきました。もともと収納とは、ものを隠すことを前提としていただけに、こうした消費者ニーズの変化に対応した製品開発が急務となりました。

そこで当社は、お気に入りのものを飾ったり、よく使用するものを置いたりすることを想定した収納製品として「リビングステージ デイ スプレイシェルフ」と「リビングステージ フロートカウンター」を開



リビングステージ フロートカウンター

2016年に発売しました。

また、人が中に入れるスペースを設けたウォークインクローゼットにも人気が集まってきたことから、2018年に収納力、デザイン性、施工性を追求した「フィルフィット」を開発しました。

ウォークインクローゼットは一般的に、独立した小部屋を想像しがちですが、この「フィルフィット」は自立式のため、室内空間の一部を利用して設置することが可能な製品です。

また生活動線上の壁を収納空間として活かした製品では2019年に発売した「ルルボ」があります。「ルルボ」は、壁埋め込み、壁付けのいずれでも設置が可能で、部屋の用途に合わせて、必要な小物を効率よく収納できるよう設計しています。

デザイン性、施工性を追求し続ける収納製品



RURUBO (ルルボ)



フィルフィット



グランマジエスト シューズボックス

なお、ご紹介した「リビングステージ」「フィルフィット」「ルルボ」については、当社の営業支援システム「EDネットプラス」で、自由にプランニングできるほか、図面やプレゼンボード、見積書等も作成することが可能です。

さらに2020年には上質な空間づくりにこだわって、高級ゾーン向けのシリーズ「グランマジエスト」からシューズボックスを発売しました。この製品は、デザインや質感を徹底的に追求し、扉の割り付けに関係なく、1枚板のような連続した木目柄も可能にしました。

「ものを効率よく片付けたい」という消費者ニーズは普遍的といえるでしょう。しかしライフスタイルの変化に伴い、従来とは異なるデザイン、機能が求められることが想像されます。

当社ではそのような要望にいち早く応え、今後もよりよい製品づくりを力を入れていると考えています。

当社の収納製品の歴史をたどるシリーズも、この後編で一区切りとなります。最終回は、近年開発した製品について、振り返ってみたいと思います。

EIDAI HISTORY

第7回 内装材（収納製品）の開発 後編

魅せる現場コンテスト殿堂入り企業の業務改善
～他部門との連携チーム化が成功の鍵～

先日、住宅産業塾で毎年開催している『第8回 魅せる現場コンテスト』表彰式を行いました。本コンテストは、『現場きれい』を実践するだけでなく、品質・安全・マナー、そして魅せるという要素、さらに現場からどれだけ評判を呼んでいるかなどを総合的に評価し現場から信頼され、現場から顧客創造できるような企業を目指しているという取り組みです。今回は、3年連続で最優秀賞以上を取得し、コンテスト殿堂入り(5年間で3回総合最優秀賞を受賞すること)した企業の成果から、工務店の業務改善例をお伝えしたいと思います。

魅せる現場で成果も確実に

今回殿堂入りされたのは、愛知県江南市の(株)波多野工務店様です。現場での環境整備を徹底されたことでブランド力向上をみごとに果たされたことにあります。その実現された中心のテーマが、標準化を徹底して推し進めてこられたことです。『現場きれい』の内容の標準化を進め、現場の設えも全てルールを決めツールにまで落とし込み、誰でもいつでも現場が同じレベルを維持できる仕組みを築き上げられました。

また、今年は完成図書による事前発注の

順守を一年間継続されたことでさらに一段とレベルアップされていました。図面が完成されないまま、仕様が一部保留の状態で着工するのが業界では一般的ですが、これは余分な手間を生みミス・ロス・ムダの大きな原因となるだけでなく、関わる方々すべてのモチベーション低下にもつながります。波多野工務店様では、図面・仕様を完成させ着工式で施工最終確認の5者確認(お客様、営業・設計・IC・工事担当者)を行うことを例外なく実施されました。その結果、作業効率が大きく改善されトラブルがなくなり現場レベルの向上にも大きく貢献することになり、工事は魅せる現場づくりに集中でき、残手直し工事ゼロでの引き渡しが可能となりました。品質・工事原価向上に貢献、打ち合わせ時間も減少し生産性向上と、労働時間の短縮、違算・クレームも極端に改善されています。さらにお客様の満足度も向上し、他にない自社の強みとして現場レベルが一貫していることで、営業・広報担当者も積極的に魅せる現場を活用できるようになるなど、善の循環が生まれています。そして、現場はお客様だけでなく近隣の評判を呼び、紹介による案件も増えているようで、魅せる現場による具体的な成果も確実なものになりました。

他部門の協力が必要不可欠

これを実現させるためには、他部門の協力が必要不可欠となります。特に設計は着工式までに図面を揃えることに集中し、一棟でも例外を許さず守ることとなります。さらにそのためには、着工式までに仕様を決めておくことが重要であり、そのことを営業は契約前にお客様に理解を求めておく必要も出てきます。すなわち、完成図書による事前発注の実現は、各部門を横断し課題・意識を共有し、互いが連携して業務改善に取り組んだ結果です。そしてそれを実現したからこそ、今回のコンテストで総合最優秀賞を獲得したのです。同社は殿堂入りとなるだけの高い現場力を実現し、新たな顧客創造手段の構築へとつながっていきました。住宅産業塾でも、こうした企業は多くなく、7社目です。難しい道ですが、挑戦する価値がある業務改善ではないでしょうか。

完成図書による事前発注ができない理由と解決策

理由	解決策
① 営業からの情報が正確に伝達されない ② 営業の説明不足によるトラブル ③ 設計者の知識・認識不足 ④ 設計者が仕様の把握ができない ⑤ 解体後の再敷地環境調査をしていない ⑥ プラン確定をやっていない、または甘い ⑦ 仕上表・仕様書の打ち合わせ不足による不備 ⑧ 標準仕様以外の追加変更仕上げ寸法等の表示が甘い ⑨ 図面の表示が不十分で、検図が甘い ⑩ 標準化の不足 ⑪ CADソフトの不足やオペレータの実力不足 ⑫ 設計者が現場を知らない ⑬ 設計者がお客様に会わない	① 標準化 ・設計の標準化 ・作図の標準化へルール化 ② 責任の明確化 ・業務フローの明確化 ③ CADソフト&オペレータの充実 ④ 設計者のレベルアップ ※標準詳細図・標準仕様書の作成 絶対に「完成図書」を作成する決意！

大阪の街は海運・水運業により発展し、かつては「水の都」と呼ばれていました。木材は筏を組んで運ばれ、高知県産の木材を扱ったことに由来する土佐堀、白髪堀、そして立売堀(いたちぼり)周辺には、木材・製材業者、銘木業者、建材卸の会社が集まっていました。平成の初めからせいぜい半ばぐらいまででしょうか、合板価格が乱高下していた頃、そうした建材卸の会社には相場を読み、

売り買いする経験豊富なベテランが必ず一人はいました。

中之島にはいくつか旧財閥系の総合商社があり、その中の木材部が合板や原木を扱っていました。生産地の情報を仕入れようと、四ツ橋から淀屋橋の方に向かって川沿いの道を歩き、よく商社を訪ねたものでした。今回の原風景となった場所で川の流れを見つめていると、過ぎ去った昔のことが懐かしく思い出されました。